特集1 ラグビーワールドカップ2019™ 日本大会 釜石開催に向けて

世界と新たな絆を結ぼう!!

いよいよ来年、釜石で開催！ 世界中から集まるファンをおもてなししましょう

2019年秋、世界の熱視線が日本に、岩手・釜石に注がれます。ラグビー選手の憧れの舞台であり、4年に一度、世界王者を決める「ラグビーワールドカップ(TM)」。アジア初開催となる来年の日本大会において、東日本大震災津波の被災地で唯一の会場となるのが釜石市です。大会中は多くのファンが集まることが予想されるほか、参加チームが大会前に直前練習などを行う県内4つの公認チームキャンプ地とその周辺には、4カ国の選手団・関係者が滞在します。

世界最高レベルの戦いを観戦できるのはもちろんですが、世界中の方に復興の歩みを進める地域の姿を見てもらい、岩手の魅力をアピールする絶好のチャンス。一人一人が岩手の代表として、世界の選手やファンと交流を深めましょう。

■ラグビーワールドカップ2019™日本大会開催期間
2019年9月20日(金)～11月2日(土)

■釜石鵜住居復興スタジアムでの試合開催日
2019年9月25日(水)・10月13日(日)

■前回大会の公認チームキャンプでは、キャンプ地のグラウンドや施設などでの練習のほか、地元の子どもたちとの交流も行われています。

県内で行われる公認チームキャンプ

ラグビーを通じて 世界との交流が始まっています！

ラグビー世界ランキング1位のニュージーランドから高校生が来県

9月27日から10月5日までの9日間、岩手にニュージーランドのラグビー少年たちがやってきました。来県したのは、クライストチャーチにあるクライスト・カレッジ高校ラグビー部の男子生徒20人。クライストチャーチは、東日本大震災津波が発生する2週間前に、大地震で甚大な被害を受けた都市です。

滞在中は、釜石市と北上市を訪問。県内の高校生と練習に汗を流し、県の高校選抜チームと交流試合を行ったほか、釜石市では釜石高校の生徒たちと震災や防災について語り合い、北上市では鬼剣舞の鑑賞や座禅など日本文化に触れながら、さまざまなことを体験。釜石市と北上市の家庭でのホームステイを通して、岩手の高校生やその家族と交流を深めました。

釜石 ホストファミリー
佐藤永一郎さんご家族

チャールズ君を受け入れた佐藤永一郎さんご家族。左端が節子さん、右端が美里さん。

何度か外国の子どもたちを受け入れた経験がある佐藤さんご家族は、チャールズ君という男子生徒を預かり、2日間を共に過ごしました。家族の中で英語を話せるのは、長男の妻の美里さんだけ。他の家族は身振り手振りで会話をしたと言います。「外国の子どもたちには、津波の話を聞かせ、着物を着せてあげるようにしています。日本の文化を知りたいという意欲的な子が多いですから」と妻の節子さん。交流試合の応援に行ったり、一緒にお祭りに出掛けるなど、交流を深めました。

北上 ホストファミリー
冨澤薫さんご家族

2人の高校生を受け入れた冨澤さんは5人家族（撮影日はご主人が不在）。真ん中が操菜さん。

冨澤さんご家族がホストファミリーを引き受けたのは、ニュージーランドに留学する娘の操菜(あやな)さんのため。少しでも留学先の様子を知りたいと思ったからでした。冨澤家にやって来たのは、ルーク君とイングブ君(4ページ上段写真右下)の2人。お互いの家族のことや将来の夢などを語り合い、回転ずしにも出掛けました。「2人との交流がいい刺激に。もっと英語力を磨いて積極的に話せるようになりたいです」と操菜さん。もう少しゆっくりいてほしかったと、名残を惜しんでいました。

釜石市ラグビーワールドカップ2019 推進本部事務局 国際交流員 **エミリー・ハラムズさん**

エミリーさんのアドバイス
笑顔で接すれば気持ちは通じますよ！

京都や東京より、「本当の日本に出会える」場所として、東北が注目されていることをご存知ですか？「うちの地域には何にもない」と謙遜する人が多いのですが、ここには美しい自然もおいしい食も、素晴らしい文化も伝統もあります。ラグビー観戦に訪れる外国人が期待するのも、こうした岩手のリアルな姿に触れること。みなさんも故郷に自信と誇りを持って、地域の魅力をたくさん教えてあげてください。言葉が通じなくても、笑顔で接すればおもてなしの気持ちは必ず伝わります。積極的に話し掛けて、どんどん交流しましょう。

みんなで 世界の人を迎えよう！

「いわて・かまいし ラグビー応援団」に あなたも参加しませんか？

いよいよ、来年秋に迫る「ラグビーワールドカップ2019(TM)日本大会」。せっかくの機会ですから、岩手ならではのおもてなしで、世界中から集まる選手やファンをお迎えしませんか。県では、独自ボランティア「いわて・かまいしラグビー応援団」に参加してくださるグループを大募集！地域のみんなで参加して、大会を盛り上げましょう。

応援団の活動事例

◎出場チームへのおもてなし準備

・参加チームの国や地域の学習
・外国語の学習

◎環境美化

・主要道や観光地の花いっぱい運動
・沿道や観光地の清掃活動
・沿道や駐車場予定地の除草・枝払い活動

◎国内外からの観客へのおもてなし

・外国人向け指さし案内表示の設置
・横断幕や旗振りなどによる沿道でのお出迎え
・敷地内への「のぼり」掲出など

大平中学校のあいさつ運動

釜石市立大平中学校では、毎週月～金曜日、ラグビーワールドカップ開催までのカウントダウンパネルを持って、あいさつ運動を行っています。

昨年の冬から始めた運動ですが、街頭で声掛けをするようになったのは今年6月から。「世界に通用するあいさつ」をテーマに、①自分から②大きな声で③爽やかに④相手の目を見て⑤笑顔で、と5つのポイントを決めて行っています。

街頭に立つのは毎日1学級で、1～3年の全5学級が日替わりで担当。最初こそ反応が薄かったものの、最近は通り掛かる人が手を振ってくれたり、あいさつを返してくれるように。継続することで反応が変化することを実感した生徒たちは、「世界に通用するあいさつ」を続けながら、世界の人を迎える準備を進めています。

応援団のお申し込み方法

■募集期間:2019年11月2日(土)まで
■応募資格:2人以上のグループ(自治会、職場、学校など)
■応募方法:申込書を電子メール、FAX、郵送でご提出ください。
■活動へのサポート内容
①活動用グッズ(横断幕・のぼりなど)の貸し出し など
②活動状況を釜石市や県のホームページで公表

申請書はこちらから ダウンロードできます。

[お問い合わせ・応募受付窓口]

(1) 釜石市、沿岸市町村、岩手県外に拠点を置くグループの申込先
釜石市ラグビーワールドカップ 2019推進本部事務局 〒026-0031釜石市鈴子町 22-1 シープラザ釜石 内
電話 :0193-27-8420 FAX:0193-31-1170 E-mail:takahashi2171@city.kamaishi.iwate.jp

(2) 内陸市町村のグループの申込先
県ラグビーワールドカップ 2019推進室 (釜石市駐在) 〒026-0031釜石市鈴子町 22-1 シープラザ釜石 内
電話 :0193-22-7522 FAX:0193-31-1170 E-mail:AK0004@pref.iwate.jp

来年6月から「三陸防災復興プロジェクト2019」開催！

三陸がつながる。
日本各地や世界とつながる。
ひとつになって更に前に進む。

2019.6.1(土)－8.7(水)

[会場] 岩手県沿岸部 13市町村
宮古市／大船渡市／久慈市／陸前高田市／釜石市／住田町／大槌町／山田町／岩泉町／田野畑村／普代村／野田村／洋野町

復興に取り組む姿を、震災の記憶と教訓を、オールいわてで発信！

三陸鉄道がリアス線としてひとつにつながり、陸前高田市に「東日本大震災津波伝承館」が開館するなど、注目を集める2019年。この機会に、復興に力強く取り組む地域の姿を発信し、震災の記憶と教訓を伝える「三陸防災復興プロジェクト2019」を開催します。これは三陸地域だけでなく、県内全ての市町村やさまざまな分野の関係団体と連携し、オール岩手で取り組むプロジェクト。

6月から8月までの期間中は、復興の今や、豊かな自然や文化、伝統芸能、食など、三陸の魅力を発信する多彩なイベントを開催。これに合わせて、各団体や企業においても関連する事業を実施していただくことで、全県的な盛り上がりを図っていきたいと考えています。

来年の夏は、新たな発見や出会いが待つ三陸にぜひお出掛けください。

復興の今や三陸の魅力を伝える多彩なイベントを開催！

1) 感謝の気持ちやつながりを深める事業

復興に取り組んでいる地域の姿を伝え、国内外からの支援への感謝を示し、さらにつながりを深めていくために。オープニングとクロージングのそれぞれのセレモニーを通じて、岩手の思いを伝えます。

2) 防災力向上に貢献する事業

東日本大震災津波から得られた教訓を世界に、そして次世代に伝えていくため、「三陸防災復興シンポジウム」を開催します。復興からの歩みと地域の現状を見つめながら、将来の備えについて考えます。

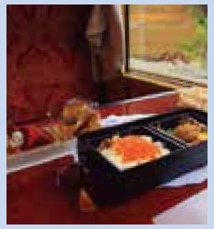
3) 文化芸術に関する事業

復興支援を通じて住民との交流が生まれた世界的な音楽家による「さんりく音楽祭2019」や、県内の郷土芸能を一堂に集めた「オールいわて・祭りイベント」を開催します。

4) 三陸の新たな魅力を発信する事業

写真提供／岩手日報社「2018年7月17日日刊」より

特徴的な海岸線が続き、豊かな資源に恵まれた三陸海岸。その魅力を体感できる「三陸ジオパークワクワクフェスタ」や、震災や復興の取り組みをテーマにした「いわて三陸学びの旅」などを開催します。



5) 新たな交通ネットワークを生かした事業

三陸鉄道が来年3月にひとつにつながることを記念し、「プレミアムランチ列車」、「夜行列車」などの企画列車や、新たな交通網を生かし、ドライブを楽しむイベントなどを開催します。